

愛知みずほ短期大学 2024

客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

1. はじめにGPA制度は、欧米の大学では一般的な成績評価方法であり、文部科学省の大学審議会の答申により「厳格な成績評価」として例示、推奨され、その影響下で各大学での導入と運用が図られてきました。

一般的なGPAの算出方法は、学生一人ひとりの履修科目の成績評点を、数値（グレートポイント「GP」という。）に置きかえ、その数値に履修した科目の単位数を掛け、求めた値を全履修科目分合計し、その合計点を総単位数で割って求めます。※1

※1 GPA算出方法(例)

成績評点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	60点未満
G P	4.00	3.00	2.00	1.00	0.00
成績評価	秀	優	良	可	不可

科目名	評点	評価	単位数	G P	算出方法
○○○○○論	100	秀	2単位	4.00	2×4.00=8.00
△△△△△実験	59	不可	1単位	0.00	1×0.00=0.00
□□□□□法	68	可	2単位	1.00	2×1.00=2.00
◇◇◇◇◇学	89	優	2単位	3.00	2×3.00=6.00
合計			7単位		(合計点)16.0点

$$f \text{ GPA} = 16.00 \text{ 点} \div 7 \text{ 単位} = 2.30$$

この単位数↑には不合格科目（不可）の単位数も含まれます。

しかし、この方法によりGPAを算出した場合、本学のように100点法（素点）を用いる大学では、GPA指標が原成績を適格に反映せず、厳格厳正である成績評価が、GPA制度の導入により、かえって不公正な評価をもたらす結果となってしまいます。（例えば、90点をとっても100点をとってもGPは同じ。）

よって、GPA指標と原成績との齟齬が少ない2の算出方法「functional GPA」を用いてGPを算出し、GPA運用を計っています。

2. functional G P Aによる G Pの算出方法について

$$G P = (成績評点 - 55) / 10$$

ただし、G P < 0.5 は G P = 0.00 とする。

これにより、成績評点 100 点で G P は最大値 4.50 となり、60 点未満の G P は一律 0.00 となります。

成績評点	100~90点	89~80点	79~70点	69~60点	60点未満
G P	4.50~3.50	3.49~2.50	2.49~1.50	1.49~0.50	0.00
成績評価	秀	優	良	可	不可

(例) f G P A 算出方法

科目名	評点	評価	単位数	G P	算出方法
○○○○○論	100	秀	2単位	4.50	2 × 4.50 = 9.00
△△△△△実験	59	不可	1単位	0.00	1 × 0.00 = 0.00
□□□□□法	68	可	2単位	1.30	2 × 1.30 = 2.60
◇◇◇◇◇学	89	優	2単位	3.40	2 × 3.40 = 6.80
	合計		7単位		(合計点) 18.40点

$G P A = 18.40 \text{ 点} \div 7 \text{ 単位} = 2.60$

3. G P Aの活用

(1) 卒業判定

卒業要件を満たし、G P A 0.70 以上の学生については、卒業を認めるものとする。

(2) 退学勧告

3 学期連続して G P A の値が 0.50 未満の学生には、学科長が退学勧告を行うことがあります。

(3) 履修登録の年間上限数の緩和

前年度までの通算 G P A が 3.00 以上の成績優秀者については、1 年間 55 単位まで履修を認めるものとします。

(4) 成績優秀者及び奨学金受給の判定基準

各学科・専攻・コースの成績優秀者(上位 1 名)に対して、学長が学期毎に表彰を行います。この表彰は各学期の G P A の値を用います。

瀬木学園奨学金制度の 2 年次以降の受給条件は、奨学 A 制度継続のためには、1 年次の通算 G P A が 3.00 以上かつ上位 10% の者とし、奨学 B 制度継続のためには、1 年次の通算 G P A が上位 30% 以内の者となります。

授業料減免及び給付型奨学金継続の条件は、G P A の値が学年の上位 4 分の 3 に達している場合とする。達していない場合は、次学期開始前までに学修指導を行うが、2 学期連続して G P A の値が学年の上位 4 分の 3 に達することができない場合は、学科長が警告を行う。3 学期連続して上位 4 分の 3 に達することができない場合は、奨学金の受給を停止します。

(5) 学修指導

病気その他やむをえない事情がないにもかかわらず、当該学期の G P A の値が 0.50 未満の学生に対して、学科長が嚴重注意を行い、学科教員を中心として学修指導を行います。次学期に改善がみられない場合は、保護者同席の上で指導を行います。

(6) 教育方法の改善

各授業科目間の成績評価のバランスチェックの指標に用い、可視化することで成績評価基準の平準化あるいは更なる明確化・厳格化を図ります。

(7) 学外実習履修要件

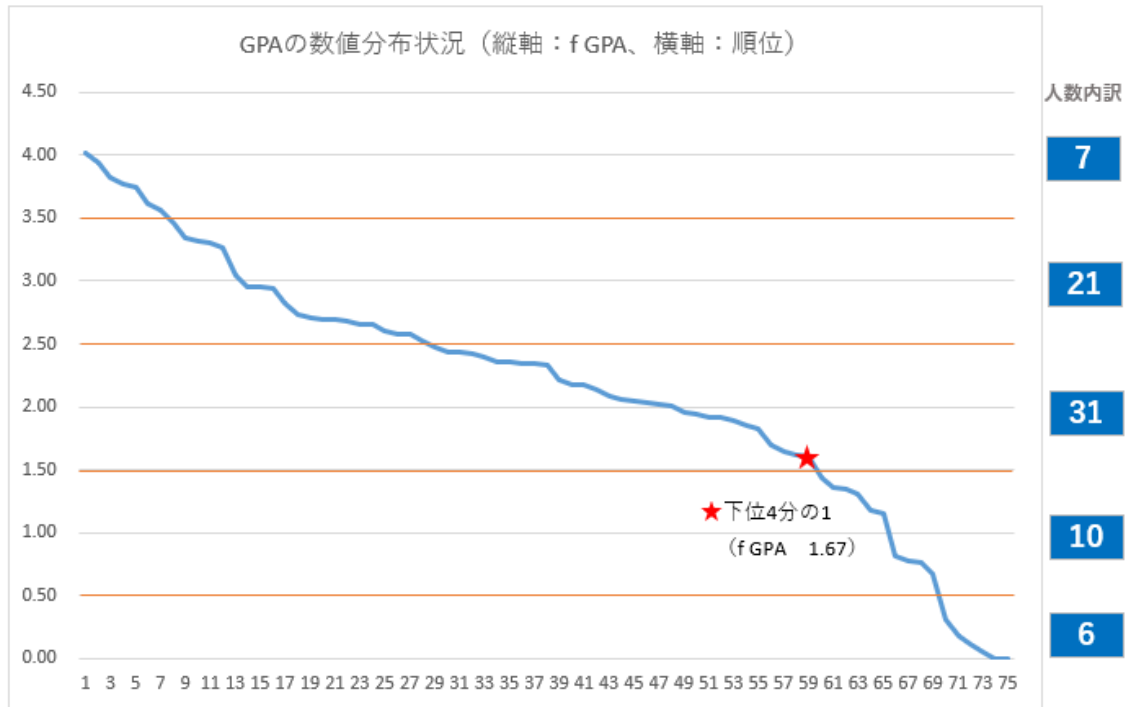
免許・資格取得に関わる学外実習履修の成績水準は G P A 1.50 以上とし、それに達しない学生については、実習担当教員の指導の上履修を認めるものとしています。

4. 学生への G P A の通知

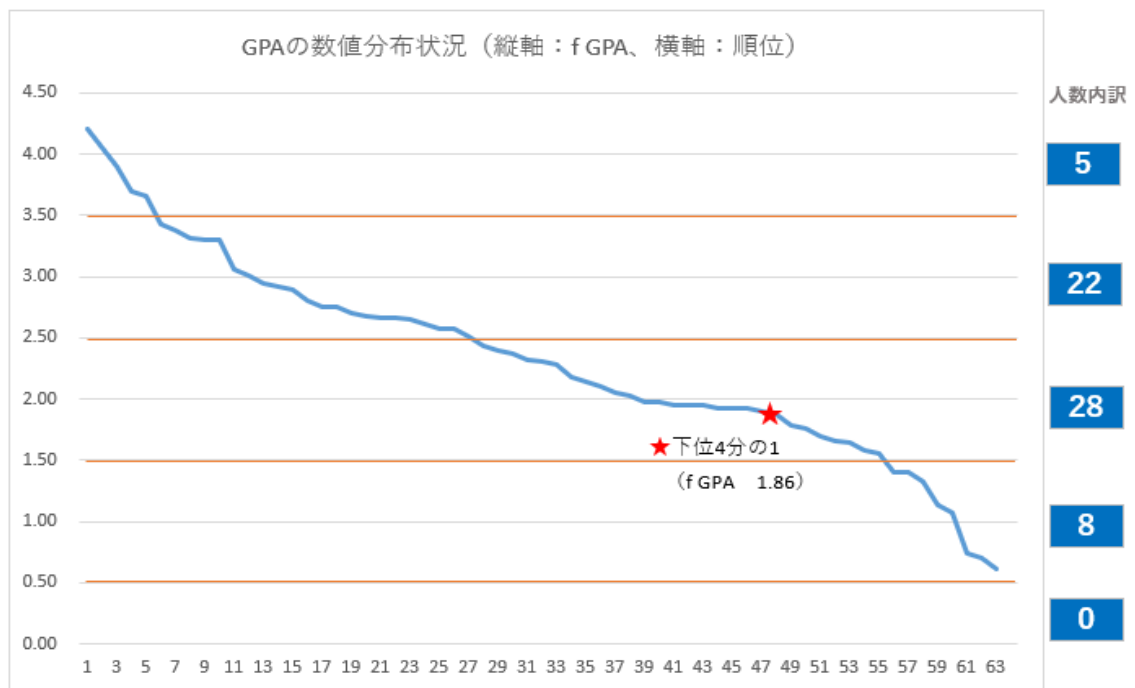
毎学期成績発表日に行い、年度末には通算 G P A を併せて通知します。

令和5年度生 生活学科 GPA 分布

1 年前期(75)

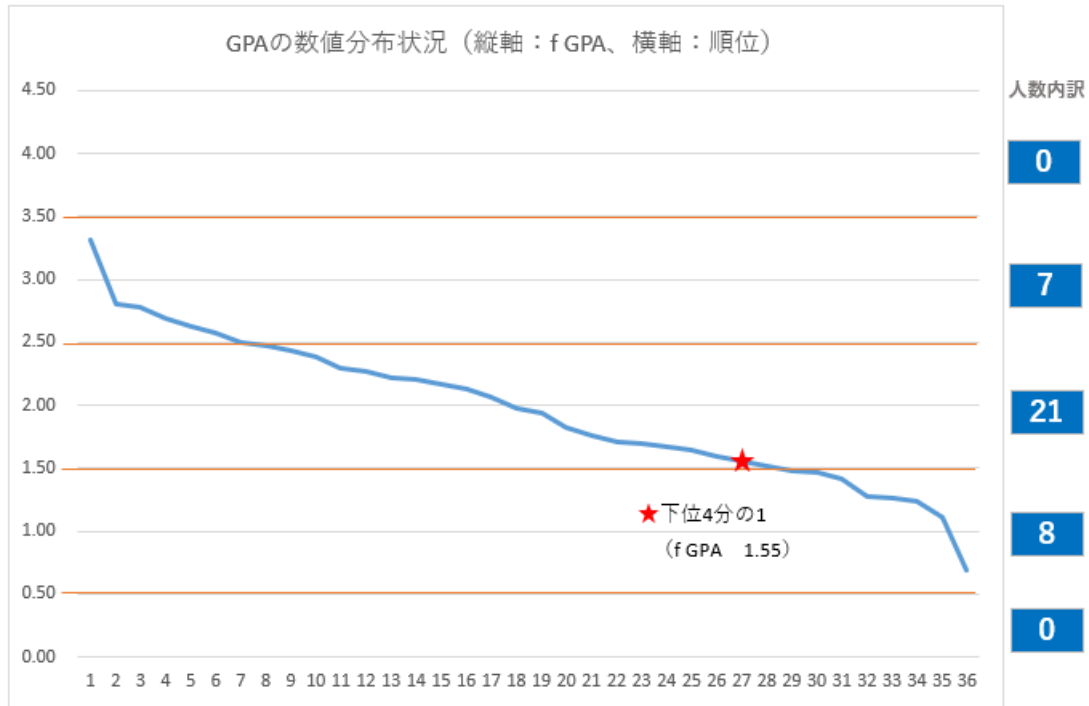


1 年後期(63)※休学除く



令和5年度生 現代幼児教育学科 GPA 分布

1年前期(36)



1年後期(34)

